

イネ科雑草が出穂している畦畔で 斑点米カメムシ類が多い ～農道・畦畔、休耕田などの除草の徹底を～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

7月2～3半旬の巡回調査（80地点）における畦畔での斑点米カメムシ類のすくい取り数（50cm幅、40回振り）は10.6頭（平年9.4頭）で平年並、発生地点率は38.8%（平年49.6%）で低かった（表-1、図-1）。同調査における畦畔雑草の状況別のすくい取り数では、「除草しているが、出穂しているイネ科雑草がある」や「除草がされていない」畦畔で斑点米カメムシ類のすくい取り数が多かった（表-2）。

予察灯調査（6地点）における6月1半旬から7月2半旬までの総誘殺数はアカスジカスミカメ（以下、アカスジ）が907頭（平年205.2頭）で多く、アカヒゲホソミドリカスミカメ（以下、アカヒゲ）が774頭（平年630.1頭）で平年並だった（図-2、図-3）。

7月17日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高い、降水量は平年並と予報されている。

以上のことから、畦畔などに出穂しているイネ科雑草があるほ場を中心に斑点米カメムシ類の次世代の発生量が多くなると予想されることから、以下の防除対策を行う。

2. 防除対策

- 1) 農道・畦畔、休耕田などにおいて出穂しているイネ科雑草がある場合は、直ちに除草を行う。現在、除草が徹底されている場合でも、稲が出穂する15～10日前まで継続して除草を行い、イネ科雑草が出穂しない管理に努める（図-4）。
- 2) 水田畦畔刈り込み代用剤を散布すれば、40～50日の抑草効果が期待できる。

3. 資料

表-1 畦畔での斑点米カメムシ類のすくい取り結果(7月2～3半旬)

	斑点米カメムシ類		アカスジ		アカヒゲ	
	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)
2025	10.6	38.8	8.6	25.0	2.0	27.5
平年	9.4	49.6	5.6	28.5	3.8	41.3
概評	並	少	やや多	並	やや少	少

表-2 畦畔雑草の状況別のすくい取り数(7月2～3半旬)

雑草の状況	地点率(%)	斑点米カメムシ類(頭)	アカスジ(頭)	アカヒゲ(頭)
除草が徹底されている	25.0	0.1	0.1	0.1
除草しているが、新葉が伸びている	52.5	2.1	1.2	0.9
除草しているが、出穂しているイネ科雑草がある	12.5	55.4	44.8	10.6
除草がされていない	10.0	15.6	15.0	0.6

注: ラウンドの関係で合計値が一致しないことがある

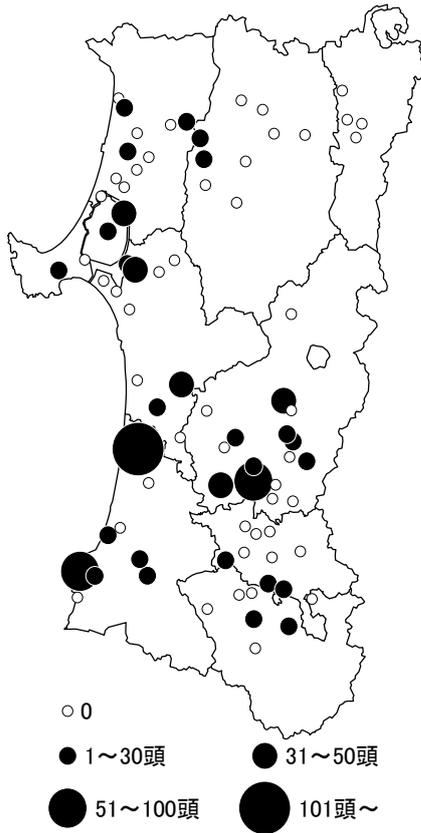


図-1 畦畔における斑点米カメムシ類のすくい取り数(7月2～3半旬)

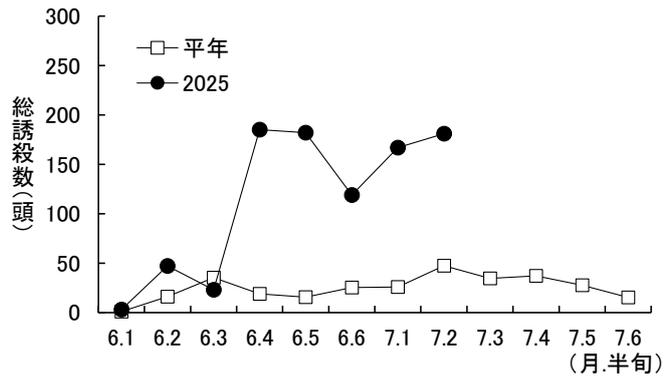


図-2 予察灯調査(6地点)におけるアカスジの総誘殺数の推移

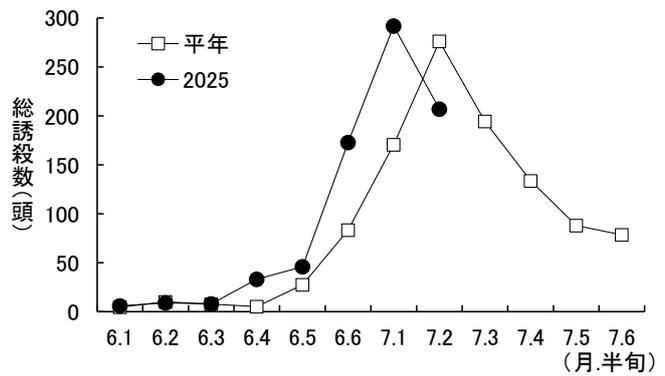


図-3 予察灯調査(6地点)におけるアカヒゲの誘殺数の推移

	6月		7月			8月			9月	
	上~下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
本田防除						1回目防除 出穂期10日後頃	2回目防除 出穂期24日後頃			
農道 畦畔	6月上旬 ←	草刈り	→	稲出穂 15~10日前		草刈り 7日以内	→	収穫 2週間前 ←	草刈り	→
法面 休耕田等	6月上旬 ←	草刈り	→	稲出穂 15~10日前	←	草刈り 禁止	→	収穫 2週間前 ←	草刈り	→

図-4 本田防除と水田周辺の草刈り時期

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所	TEL 018-881-3660
秋田県農業試験場	TEL 018-881-3326
掲載HP https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/	